

新年度が始まって あっという間にゴールデンウィークも終わり、5月半ばを迎えました。
2025年度の歩みが いよいよ本格的にスタートです。改めまして よろしくお願い致します。

4月からの新しい仲間、蒼くん・凰雅くん・龍馬くん・淳矢くんの4名も、日一日と少しずつ不安や緊張が和らいでいき、皆の中で自然と 穏やかな笑顔が見られるようになってきました。つのぶえ保育園が自分達の居場所であることを受け入れてくれるようになってきたんだなぁと嬉しく見守っているこの頃です。そして その姿に、子どもの精神の逞しさ、順応性・柔軟性の素晴らしさをつくづく思われています。日々 人としてぶつかり合いや分かち合いを繰り返し、その一つ一つのささやかな試行錯誤の体験を通して、様々なことに好奇心を抱きながら 挑戦し、自らの感性を育てていく子ども達は、常に 私自身にとっての力となり 刺激となり 勇気となり、大切な宝物です。今年もまた 愛する子ども達と共に歩みを重ねることが出来る1年に感謝です。

この保育園が、子ども達一人一人にとって いつでも『自分の家のように過ごせる空間』であり 私達保育者が いつも『家の人と同じように安心して信頼できる存在』になれるよう、心を込め尽くして参ります。そして何よりも、皆様からお預かりしている かけがえのない 小さな命を大切にいつくしみ 育て参ります。それぞれの心に寄り添い、それぞれの視点と歩幅に合わせ、それぞれの成長を喜び合う者であるよう、職員一同、皆で 想いを分かち合い、祈りを合わせて楽しい毎日を過ごしたいと願っております。

保育園は、子ども達にとって生まれて初めての“社会”です。“公的生活空間”です。その中で『人と関わり合って生き合う』という、生きる上で重要な、心の土台をつくるためにたくさんの経験を重ねていく場所であることを心掛けています。そのためには まず必要なのは『それぞれが、あるがままの自分を、ありのままに のびのびと表わせるようになる』ことです。これは人間関係の構築に大切な“信頼”に繋がります。信頼とは 互いの心を委ね合うことです。でも、自分自身を受け入れ あるがままに生きることは、極めて困難なことなのかもしれません。だからこそ 自分自身を信じる 目に見えない“心”を、大らかにまっすぐに伸ばしたいと願う私達です。人の心に生まれる 信じるという想いは、自分が愛されている安心感から養われます。私達人間は皆、神様から愛されています。そのことを知っている心は 強く優しく揺るぎません。愛され 祈られ ゆるされて育った子どもは、人を愛し 人のために祈り、人をゆるし 思いやる心が育ちます。神さまが今も昔もずっと 私達に願っていることは互いを思いやる愛の世界です。つのぶえ保育園に導かれ、ここで与えられた出会いはきっと、一人一人が神様と出会うために神様がくださった必然なのだと信じています。今年も この出会いに感謝し合い、私達保育者が“最初に出会う社会人”として、子ども達の個性と可能性を豊かに発揮できるよう しっかりと温かな人的環境を整えることに努め、日々 皆で祈りを合わせながら 精一杯 尽くして参ります。

そして、ここを巣立って行った多くの卒園生達にとっても、いつまでも 心のオアシスのように 渇きや疲れをいつでも潤せる清らかな“泉”で在り続けられることを ずっと祈り続けています。今日も 世界中の人々の心に、神様の愛と平安が静かに注がれ、満たされますように。(石田 記)

「いつまでも 残るものは、信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

(新約 コリント人への手紙Ⅰ 2:19)」